

《開幕》 六本木クロッシング2022展：往来オーライ！

2022年12月1日(木)ー2023年3月26日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

いま、日本の現代アートが映し出す 人・文化・自然のカラフルな交差

森美術館は、2022年12月1日(木)から2023年3月26日(日)まで、「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」を開催します。

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本の現代アートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として、2004年以来共同キュレーション形式で開催してきたシリーズ展です。第7回目となる今回は、1940年代～1990年代生まれの日本のアーティスト22組の作品約120点を紹介します。既に国際的な活躍が目覚ましいアーティストたちから今後の活躍が期待される新進気鋭の若手まで、創造活動の交差点となる展覧会です。

長引くコロナ禍により私たちの生活は大きく変化し、これまで見えにくかったさまざまな事象が日本社会の中で顕在化しました。以前はあたりまえのように受け入れていた身近な物事や生活環境を見つめ直すようになったり、共にこの怒涛の時代を生きる隣人たちの存在とその多様さを強く意識するようになりました。そして今後、人流が回復し新たな文化の展開が期待されるなか、あらためて現在の「日本」にはさまざまな民族が共生し、この地に塗り重ねられた歴史や文化が実はすでに色とりどりであることについて、再考が求められるでしょう。その先に私たちはどのような未来を想像し、また共に作っていくことができるのでしょうか。

サブタイトルの「往来オーライ！」には、歴史上、異文化との交流や人の往来が繰り返され、複雑な過去を経て、現在の日本には多様な人・文化が共存しているという事実を再認識しつつ、コロナ禍で途絶えてしまった人々の往来を再び取り戻したい、という思いが込められています。

このような文脈において、日本の現代美術やクリエーションとは何かをあらためて広い視野から検証し、先の見えない明日をみなさんと一緒に考えたいと思います。



〈左〉
O JUN
《美しき天然》
2019年
油彩、キャンバス
350×240×5 cm
Courtesy: ミヅマアートギャラリー(東京)

〈右〉
SIDE CORE / EVERYDAY HOLIDAY SQUAD
《ロードワーク》
2017年
工事用照明器具、単管、チェーン、カラーコーン、ヘルメット、作業着、ビデオ、ほか
サイズ可変
撮影：後藤秀二
画像提供：リボーンアート・フェスティバル2017(宮城)
※参考図版

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

出展アーティスト *アーティスト名のアルファベット順

AKI INOMATA	(1983年東京生まれ、同地在住)
青木千絵	(1981年岐阜生まれ、石川在住)
青木野枝	(1958年東京生まれ、埼玉在住)
潘逸舟(ハン・イシュ)	(1987年上海生まれ、東京在住)
市原えつこ	(1988年愛知生まれ、東京在住)
伊波リンダ	(1979年沖縄生まれ、同地在住)
池田 宏	(1981年佐賀生まれ、東京在住)
猪瀬直哉	(1988年神奈川生まれ、ロンドン在住)
石垣克子	(1967年沖縄生まれ、同地在住)
石内 都	(1947年群馬生まれ、同地在住)
金川晋吾	(1981年京都生まれ、東京在住)
キュンチョメ	(2011年結成、東京拠点)
松田 修	(1979年兵庫生まれ、東京在住)
呉夏枝(オ・ハヂ)	(1976年大阪生まれ、オーストラリア、ウロンゴン在住)
○ JUN	(1956年東京生まれ、同地在住)
折元立身	(1946年神奈川生まれ、同地在住)
進藤冬華	(1975年北海道生まれ、同地在住)
SIDE CORE / EVERYDAY HOLIDAY SQUAD	(2012年/2015年結成、東京拠点)
竹内公太	(1982年兵庫生まれ、福島在住)
玉山拓郎	(1990年岐阜生まれ、東京在住)
やんツー	(1984年神奈川生まれ、千葉/神奈川在住)
横山奈美	(1986年岐阜生まれ、愛知在住)



横山奈美
《Shape of Your Words - T.K. -》
2022年
油彩、麻布
181.8×227.3 cm
Coursy: ケンジタキギャラリー(名古屋/東京)

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

開催概要

展覧会名:「六本木クロッシング2022展:往来オーライ!」

主催:森美術館

協賛:セコム株式会社、公益財団法人現代芸術振興財団、フジテック株式会社、株式会社大林組

企画:天野太郎(東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター)、
レーナ・フリッチュ
(オックスフォード大学アシュモレアン美術博物館 近現代美術キュレーター)、
橋本 梓(国立国際美術館主任研究員)、
近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)

企画協力:国立国際美術館

会期:2022年12月1日(木)ー2023年3月26日(日)

会場:森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間:10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで。ただし12月6日[火]は16:00、1月3日[火]、3月21日[火・祝]は22:00まで)

*12/17(土)は17:00まで *入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

*当館の新型コロナウイルス感染症対策への取り組みについてはウェブサイトでご確認ください。

<https://art-view.roppongihills.com/jp/info/countermeasures/index.html>



入館料:

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	1,800円	1,600円	2,000円	1,800円
学生(高校・大学生)	1,200円	1,100円	1,300円	1,200円
子供(4歳~中学生)	600円	500円	700円	600円
シニア(65歳以上)	1,500円	1,300円	1,700円	1,500円

* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。

* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

* 表示料金は消費税込

* 音声ガイド付チケット(+500円)も販売しています。

* 東京シティビュー(屋内展望台)、スカイデッキ(屋上展望台)、森アーツセンターギャラリーへの入館は別料金になります。

* 本展のチケットで、同時開催プログラムもご鑑賞いただけます。

同時開催:「MAMコレクション016:自然を瞑想するー久門剛史、ポー・ポー、梅津庸一」

「MAMスクリーン017:ナンシー・ホルト、ロバート・スミッソン」

「MAMプロジェクト030×MAMデジタル:山内祥太」

一般のお問い合わせ: Tel:050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展を紐解く3つの鍵： コロナ禍を経て、浮かび上がる社会像を考察する

本展のキュレーター4人のコロナ禍を起点とする議論により、2022年の今、考察すべき3つのトピックスで展覧会を構成します。

1. 新たな視点で身近な事象や生活環境を考える

コロナ禍により、私たちは身近な事象や生活環境をより強く意識するようになりました。これは、東日本大震災を経た日本で、自然や環境について関心が高まったことの延長線上にあると言えるでしょう。そんな意識を通じて、私たちは未来を考えることが求められています。

本展では、AKI INOMATAによるビーバーにかじられた木材を基に制作された立体作品シリーズ、コロナ禍での生活環境の変化を起点に奇想天外な未来を志向する市原えつこ、身近な環境を変容させるインスタレーションを発表する玉山拓郎、青木野枝による自然現象に想を得た大型立体作品、竹内公太が福島県の放射能汚染による立入制限区域で撮影した写真を含むインスタレーションなどを紹介します。



AKI INOMATA 《彫刻のつくりかた》 2018年-
インスタレーション サイズ可変
Courtesy: 公益財団法人 現代芸術振興財団(東京)
展示風景: 「彫刻のつくりかた」公益財団法人 現代芸術振興財団 事務局(東京)2021年
撮影: 木奥恵三



市原えつこ 《未来SUSHI》 2022年
食品サンプル、食器、回転コンベア、電子パーツ、人型ロボット、
3Dプリント素材、アクリル、木材、ほか
サイズ可変

2. さまざまな隣人と共に生きる

今、遠隔のコミュニケーションにより働き方の選択肢が増えたり、多拠点生活が可能になっています。このようにコロナ禍がもたらした変化は、個々人の属性や家庭環境、社会的状況によりさまざまであり、多様な隣人がいることに気づかされました。

本展では、変わりゆく世界を見つめながら、さまざまな隣人たちを描くO JUNの絵画、失踪していた伯母と再会し、その後の姿を撮影し続けた金川晋吾によるポートレート写真、キュンチョメによるトランスジェンダーを主題とした映像作品などを紹介します。「ダイバーシティ」や「LGBTQ+」という言葉を意識した取り組みが加速度的に増える一方で、そうした言葉の影に隠されてしまうもっと見えにくい差異も含めて、さまざまな人たちが共に暮らす今日の社会の姿を考察します。



金川晋吾 《長い間》 2011年
インクジェットプリント 28.3 × 35.7 cm



キュンチョメ 《声枯れるまで》 2019/2022年
ビデオ 27分

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

3. 日本の中の多文化性に光をあてる

コロナ禍で海外からの人流が途絶えたにもかかわらず、海外にルーツを持ちつつ日本で生活している人たちの姿を日常的に目にします。インバウンド・ブームの陰で見えにくくなっていた、この国には多様な民族が共生しているという事実がより見えやすくなったといえるでしょう。顧みれば現在の日本は、アイヌや沖縄の人々、中国系、コリア系といったさまざまな民族が、政治的变化や複雑な歴史を経て共に暮らす場となっています。昨今、世界中で民族・文化的に周縁とされてきたものに対する再評価の動きがあるなかで、連綿と続いてきた日本の中の文化的多様性に光をあて、新しい時代を共に考える必然性があるのではないのでしょうか？

本展では、池田宏によるアイヌの人々を主題とした映像インスタレーション、住み慣れた場所を離れる最後の時間を撮影した石内都の写真作品、海路による人々の往来を主題にテキスタイルで物語を紡ぎ出す呉夏枝や潘逸舟による移住・移転をテーマにした作品、石垣克子と伊波リンダという沖縄出身のアーティストによる作品などを紹介します。



池田 宏
《椎久慎介 標津町2022年7月》
([AINU 2019-2022]シリーズより)
2022年
デジタルデータ
サイズ可変



呉夏枝(オ・ハヂ)
《空白いろのきおくに浮かぶ海女の家／船》
2018年
金沢で集めた古着や布(麻長襦袢、木綿晒など)、亜麻、
陶器重り、釣針、サイアノタイププリント
サイズ可変
展示風景:「東アジア文化都市2018金沢 変容する家」金沢
21世紀美術館
撮影:木奥恵三
※参考図版

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/roppongicrossing2022/>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

?! 展覧会関連プログラム

■キュレータートーク「クロストーク2022」 ※日英同時通訳付

本展では4人のキュレーターがアーティストをそれぞれ推薦し、幾度となく議論を重ねて出展アーティストを決定しました。今回の「六本木クロッシング2022展」で重視したコンセプトや展覧会の舞台裏などについてキュレーターたちが語ります。

日時: 2022年12月3日(土)14:00~15:30(開場:13:30)

出演: 天野太郎(東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター)、
レーナ・フリッチュ(オックスフォード大学アシュモレアン美術博物館 近現代美術キュレーター)、
橋本 梓(国立国際美術館主任研究員)、近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)

会場: 森美術館オーデトリウム

定員: 50名(要予約、先着順)

料金: 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

■アーティストトーク ※日英同時通訳付

本展出展アーティストが、自作について語ります。

日時: 2022年12月3日(土)17:00~19:30(開場16:30)

出演: 伊波リンダ、石垣克子、キュンチョメ、呉夏枝、進藤冬華

会場: 森美術館オーデトリウム

定員: 50名(要予約、先着順)

料金: 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

■ギャラリートーク ※日本語のみ

本展を担当したキュレーターが展示室内でツアー形式のトークを行います。

日時: 2022年12月21日(水)19:00~20:00

ガイド: 近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)

会場: 森美術館展示室内

定員: 15名

料金: 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 不要(当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください)

* 出演者は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

* このほかにも、会期中にはアーティストトークやトークセッション、当館スタッフによるギャラリートーク、おやこでアート、手話ツアー、アート・キャンプなどの対面でのプログラムやアクセス・オンライン・プログラムの開催を予定しています。

最新の情報は森美術館ウェブサイト(www.mori.art.museum)にてご確認ください。

プログラムに関するお問い合わせ: 森美術館 ラーニング担当

E-mail: mam-learning@mori.co.jp

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

関連情報

■ 音声ガイド

本展出品作品と企画者3名(天野太郎、レーナ・フリッチュ、橋本 梓)による「本展を紐解く3つの鍵」の解説が収録された音声ガイドをウェブアプリにてご用意しています。

※スマートフォンやイヤフォンの貸し出しは行っておりませんのでご持参ください。

ガイド件数: 全15件 **解説時間:** 約25分 **言語:** 日本語、英語 **料金:** 500円(税込) **企画・制作:** アイシアター **監修:** 森美術館

■ 展覧会カタログ

論考執筆者: 天野太郎、レーナ・フリッチュ、橋本 梓、近藤健一

サイズ: A4変形(28.2×21cm) **ページ数:** 未定 **言語:** 日英バイリンガル **価格:** 3,740円(税込)

発売日: 2023年1月下旬(予定) **制作:** カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 美術出版社書籍編集部

発行: 森美術館

販売場所: 森美術館 ショップ 53(六本木ヒルズ森タワー53階)、森美術館 ショップ(六本木ヒルズウェストウォーク3階)、森美術館オンラインショップ(<https://shop.mori.art.museum/>)

■ 展覧会オリジナルグッズ

森美術館オリジナル コットンバッグ (Black) × 「六本木クロッシング2022展:往来オーライ!」スペシャルエディション

森美術館のロゴがプリントされた定番のコットンバッグの裏面に、展覧会のサブタイトルがデザインされた、本展限定のスペシャルエディション。 **価格:** 500円(税込)



(表)

(裏)

往来オーライ! 缶バッジ

展覧会のサブタイトルやロゴがデザインされた缶バッジ(全6種)。

グラデーションが美しくリュックやカバンアクセントにオススメです。

サイズ: 直径57mm **価格:** 各605円(税込)



○ JUN “美しき〈表裏一体〉天然” Tシャツ(ロングスリーブ)

出展アーティストO JUNの作品《美しき天然》をデザインしたロングスリーブTシャツ。表面には作品周りの線画、裏面には絵画がプリントされた、“美しき〈表裏一体〉天然” Tシャツ。アームには展覧会タイトルがレイアウトされています。

サイズ: S, M, L, LL ※ユニセックス **価格:** 各6,050円(税込)



(表)

(裏)

ポストカード

本展で展示されている作品のポストカード各種。鑑賞の記念に。

価格: 各165円~220円(税込)



お問い合わせ: 森美術館 ショップ 53

Tel: 03-6406-6118 営業時間: 10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※美術館の開館時間に準ずる

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

森美術館「六本木クロッシング2022展:往来オーライ!」 同時開催小プログラムのご案内

会期: 2022年12月1日(水) - 2023年3月26日(日) 会場: 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



「MAMコレクション」は、森美術館の収蔵品を、
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション016: 自然を瞑想する—久門剛史、ポー・ポー、梅津庸一

主催: 森美術館

企画: 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamcollection016/index.html>



久門剛史
《クオオントアイズーチェーンマイでの対話》
2018年
電球、サウンド、アルミニウム、木、プログラミング、
電気ケーブル
サイズ可変
展示風景: 「MAMプロジェクト025: アピチャッポン・ウィーラセタクン+久門剛史」森美術館(東京)
2018年
撮影: 来田 猛



「MAMスクリーン」は、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネルの作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン017: ナンシー・ホルト、ロバート・スミッソン

主催: 森美術館

企画: マーティン・ゲルマン(森美術館アジャクト・キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamscreen017/index.html>



ナンシー・ホルト
《サン・トンネルズ》
1973-1976年
コンクリート、鋼、土
280 × 2620 × 1620 cm
© 2022 Holt/Smithson Foundation and Dia Art
Foundation / Licensed by ARS, NY and JASPAR,
Tokyo G3056



「MAMプロジェクト」は、森美術館が多様な現代アートのかたちを紹介するシリーズです。
「MAMデジタル」は、森美術館がデジタルメディアを活用して展開するプログラムおよび
プラットフォームの総称です。

MAMプロジェクト030×MAMデジタル: 山内祥太

主催: 森美術館

企画: 椿 玲子(森美術館キュレーター)

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamproject030/index.html>



山内祥太
《カオの惑星》(イメージ図)
2022年
インタラクティブ・インスタレーション
ミクストメディア
システムエンジニア: 曾根光揮、早川翔人
3Dモデリング: 加藤大介
サウンド: 小松千倫

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp